



概要

この章は、次の内容で構成されています。

- [ライセンス要件 \(1 ページ\)](#)
- [システム管理機能, on page 1](#)

ライセンス要件

Cisco NX-OS ライセンス方式の推奨の詳細と、ライセンスの取得および適用の方法については、『[Cisco NX-OS Licensing Guide](#)』を参照してください。

システム管理機能

このマニュアルに記載されているシステム管理機能について説明します。

特長	説明
スイッチ プロファイル	<p>設定の同期を使用すると、管理者は、設定変更を 1 台のスイッチで行い、ピア スイッチに自動的に設定を同期させることができます。この機能により、設定ミスがなくなり、管理上のオーバーヘッドが軽減されます。</p> <p>設定同期モード (config-sync) を使用すると、ローカルおよびピア スイッチを同期するためにスイッチ プロファイルを作成できます。</p>

特長	説明
Cisco Fabric Services	Cisco MDS NX-OS ソフトウェアは、データベースを効率的に分散し、デバイスの柔軟性を高めるため、Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用します。CFS により、ファブリック内のすべてのスイッチに設定情報を自動的に配信できるため、SAN のプロビジョニングが簡単になります。
高精度時間プロトコル	高精度時間プロトコル (PTP) はネットワークに分散したノードの時刻同期プロトコルです。そのハードウェアのタイムスタンプ機能は、ネットワーク タイムプロトコル (NTP) などの他の時刻同期プロトコルより高い精度を実現します。
ユーザー アカウントおよび RBAC	ユーザーアカウントおよびロールベースアクセス コントロール (RBAC) では、割り当てられたロールのルールを定義できます。ロールは、ユーザーが管理操作にアクセスするための許可を制限します。各ユーザー ロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザーが複数のロールを持つことができます。
Session Manager	Session Manager を使用すると、コンフィギュレーションを作成し、すべて正しく設定されていることを確認および検証したあとでバッチ モードで適用できます。
オンライン診断	Cisco Generic Online Diagnostics (GOLD) では、複数のシスコ プラットフォームにまたがる診断操作の共通フレームワークを定義しています。オンライン診断フレームワークでは、中央集中システムおよび分散システムに対応する、プラットフォームに依存しない障害検出アーキテクチャを規定しています。これには共通の診断 CLI とともに、起動時および実行時に診断するための、プラットフォームに依存しない障害検出手順が含まれます。 プラットフォーム固有の診断機能は、ハードウェア固有の障害検出テストを行い、診断テストの結果に応じて適切な対策を実行できます。

特長	説明
システム メッセージ ログイング	<p>システム メッセージ ログイングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモート システム上の syslog サーバーへのログイングを設定できます。</p> <p>システム メッセージ ログイングは RFC 3164 に準拠しています。システムメッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。</p>
Smart Call Home	<p>Call Home は重要なシステム ポリシーを電子メールで通知します。Cisco NX-OS では、ポケットベル サービス、標準的な電子メール、またはXMLベースの自動化された解析アプリケーションとの最適な互換性のために、広範なメッセージ形式が提供されています。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアやネットワーク オペレーション センターを呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。</p>
設定のロールバック	<p>設定のロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザー チェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。</p>
SNMP	<p>簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。</p>

特長	説明
RMON	RMONは、各種のネットワークエージェントおよびコンソールシステムがネットワークモニタリングデータを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF) 標準モニタリング仕様です。Cisco NX-OSでは、Cisco NX-OS デバイスをモニターするための、RMON アラーム、イベント、およびログをサポートします。
SPAN	スイッチドポートアナライザ (SPAN) 機能 (ポートミラーリングまたはポートモニタリングとも呼ばれる) は、ネットワークアナライザによる分析のためにネットワークトラフィックを選択します。ネットワークアナライザは、Cisco SwitchProbe、ファイバチャネルアナライザ、またはその他のリモートモニタリング (RMON) プロブです。

特長	説明
ERSPAN	<p>Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) は、IP ネットワークでミラーリングされたトラフィックを転送するために使用します。ERSPAN は異なるスイッチ上の送信元ポート、送信元 VLAN、および宛先をサポートし、ネットワーク上にある複数のスイッチのリモート モニタリングを可能にします。ERSPAN は、スイッチ間でトラフィックを伝送するために、Generic Routing Encapsulation (GRE) を使用します。</p> <p>ERSPAN は、ERSPAN 送信元セッション、ルーティング可能な ERSPAN GRE カプセル化トラフィック、および ERSPAN 宛先セッションで構成されています。異なるスイッチで ERSPAN 送信元セッションおよび宛先セッションを個別に設定します。</p> <p>ERSPAN 送信元セッションを 1 台のスイッチ上で設定するには、送信元ポートまたは VLAN のセットを、宛先 IP アドレス、ERSPAN ID 番号、および仮想ルーティングおよび転送 (VRF) 名に対応付けます。ERSPAN 宛先セッションを別のスイッチ上で設定するには、宛先を送信元 IP アドレス、ERSPAN ID 番号、および VRF 名に対応付けます。</p> <p>ERSPAN 送信元セッションは、送信元ポートまたは送信元 VLAN からのトラフィックをコピーし、このトラフィックを、ルーティング可能な GRE カプセル化パケットを使用して ERSPAN 宛先セッションに転送します。ERSPAN 宛先セッションはトラフィックを宛先にスイッチングします。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。